

一般口演 | 一般心臓病学

## 一般口演1-01 ( I-OR101)

### 一般心臓病学

座長:

曾我 恭司 (昭和大学横浜市北部病院 こどもセンター)

Wed. Jul 6, 2016 8:40 AM - 9:30 AM 第C会場 (オーロラ ウェスト)

I-OR101-01~I-OR101-05

8:40 AM - 9:30 AM

## [I-OR101-01]極低出生体重児(<1500g)の先天性心疾患の実態-多施設研究-

○中嶋 八隅<sup>1</sup>, 森 善樹<sup>1</sup>, 杉浦 弘<sup>2</sup>, 豊島 勝昭<sup>3</sup>, 増谷 聡<sup>4</sup>, 与田 仁志<sup>5</sup>, 田中 靖彦<sup>6</sup> (1.聖隷浜松病院 小児循環器科, 2.聖隷浜松病院 新生児科, 3.神奈川こども医療センター 新生児科, 4.埼玉医科大学総合医療センター 小児循環器部門, 5.東邦医大学医療センター大森病院 新生児科, 6.静岡県立こども病院 新生児科)

Keywords:極低出生体重児、先天性心疾患、疾患分布

背景：以前我々は当院の先天性心疾患（CHD）を有する極低出生体重児（VLBWI）の実態を報告した。しかし症例数が少なく、日本の実態は反映しているとは言い難い。目的：日本のCHD合併のVLBWIの実態を明らかにすること。方法：全国NICUに調査票を配布し、2006-2010年に出生したVLBWIのアンケート調査を行った。CHD合併、非CHD合併例の総数、CHD合併例では在胎週数、染色体異常、心外奇形の有無、治療内容、転帰を調査した。当院の非CHD合併例をコントロールとし、比較検討した。結果：12施設の回答を得られた。VLBWI総数3237名のうちCHD128名で、頻度は3.6%だった。CHD内訳は心室中隔欠損症（42.2%）、ファロー四徴症（10.2%）、大動脈縮窄症（単純、複合を含む、10.2%）、两大血管右室起始症（9.4%）が多かった。染色体異常、心外奇形はCHD群で有意に高率だった（45.3%、50% vs. 1.9%、8.3%、 $p < 0.05$ ）。外科的治療は51名（39.8%）で行われ、初回治療が手術だった症例は44名（37.0%）で、カテーテル治療は7名（BASを含む）だった。染色体異常で外科的介入をしなかった症例は30名（%）いた。初回手術で最終手術を施行したのは15名、姑息術は33名で、姑息術後に19名が最終手術に到達し、4名が未到達であり、最終手術到達率は70.8%だった。観察期間も2015年までに68名が生存、48名が死亡、12名が不明で、死亡率41.4%でコントロールより高率だった（14.3%）。術後死亡例は9名で、全て姑息術後例だった。手術介入例の死亡率は17.6%だった。結語：本邦で報告されている一般のCHDの頻度1.06%よりVLBWIのCHDの頻度はより高く、外科的介入を要する症例が多い。また染色体異常、心外奇形を高率に合併する。その奇形症候群のため介入していない症例が多数存在し、非CHD合併のVLBWIよりは予後不良で、管理の難しさが示唆された。